

## 令和4年度 第2回松本市図書館協議会 議事録

日時：令和5年2月16日（木）14：00～16：00

場所：松本市中央図書館 第1視聴覚室

### 【出席者】

委員 6名（内藤委員、赤津委員欠席）

事務局 9名

傍聴者 なし

### 【議事録】

#### 1 事務局からの事務連絡

##### (1) 委員の紹介

社会教育員会議からの推薦により、内藤謙委員が就任した。

##### (2) 欠席者の報告

ア 赤津委員及び内藤委員が欠席。

イ 委員8名中6名が出席のため本協議会は成立。

#### 2 館長あいさつ

今年度は未来プランの策定に取り組み、令和4年12月27日の教育委員会で承認、策定となった。委員の皆様にはお力添えいただき感謝。プランの策定はスタートであり、ここから職員が心をひとつにして踏み出していきたい。

子ども読書活動推進事業については、令和5年度からサードブック事業がはじまる。1人1冊配布ではなく小学校1年生に学級文庫としてプレゼントする方法をとる。子供たちが本を楽しいと思ひ、多くの大人が関わる事業として、学校の先生や学校司書からのご意見を伺ひ、検証しながら進めていきたい。

先日、札幌市職員の講演会を中央図書館でおこなった。札幌市の取り組みなどを紹介してもらひ、職員にとってよい刺激となった。今後も外部講師の話聞く機会を設けていきたい。

#### 3 議題

##### (1) 報告事項1 松本市図書館未来プランの策定について

資料P 1～15

ア 事務局から説明

(ア) 経過 資料P 1

(イ) パブリックコメントの実施結果 P 2

(ウ) パブリックコメントの意見等の概要と市の考え方 P 2～P13

(エ) 経済文教委員協議会における意見の概要と市の考え方 P14～15

イ 意見

(伊東会長)

パブリックコメントの実施期間とホームページでの公開の日程は。

→ (事務局)

8月22日から9月20日までの1カ月間。すでに松本市ホームページと図書館ホームページで公開済み。また、議会にも報告済み。

(宮永委員)

- ・経済文教委員協議会での意見のなかにもあるが、「駅前に図書館設置を検討」する計画と、「現在の中央図書館を長寿命化させる」計画の両方が動いているということか。

→(事務局)

- ・駅前への図書館設置については、検討をしているが、設置に向けて具体的に動いているわけではない。
- ・現在(蟻ヶ崎)の中央図書館については、建物を長寿命化して使用する方向で進めている。

(伊東会長)

- ・未来プランの策定はスタート。今後どんな成果を残せるのかが問われてくる。

(宮永委員)

- ・パブリックコメントの8番に、職員の接遇・ホスピタリティについて厳しい意見があるが、個人的には職員の態度に大きな問題ないと認識しており、場合によっては丁寧すぎると感じることもある。様々な意見があると思うが、ひとつひとつに過剰に反応しなくてもよいのではないかと。

(伊東会長)

- ・そのように言っただきありがたい。しかし、アンケートなどでは必ず接遇に言及した意見が出る。今回も利用者から具体的な内容が指摘されているので、実際にこのような状況があったと捉える必要がある。これから

取り組んでいくべき課題。

- ・職員がモチベーションを保ち、仕事に対して生き生きと働ければ利用者にも伝わるのではないか。

(豊嶋委員)

- ・プランができあがり、今後の図書館に期待している。
- ・未来プランP56 職員体制について、他の自治体に比べて職員数が少ない。職員のスキルアップと合わせて職員数の増加が必要だと感じている。
- ・未来プランP37、P38 職員の研修費用を確保すると明記されたのがよい。職員が希望する研修に参加していけるようにしていただきたい。
- ・未来プランP28 サービス提供体制の充実について、職員の資質・能力・経験を業務分担及び待遇に適切に反映する仕組みを是非研究を進めていただきたい。

→(事務局)

ICタグ設置等の環境整備と、研修に係る予算確保に努めていきたい。

(熊谷委員)

- ・学校でも教員の研修については課題となっている。児童のいない時間を研修に充てるなど取り組んでいるところ。
- ・図書館大会は、他市では学校司書も参加しているときがある。予算確保のためには、他市と参加状況を比較するなどして現状を訴えることも効果的ではないか。
- ・職員の学びを手厚くすることは、サービスの向上にもつながる。

(伊東会長)

- ・職員が研修に参加するかどうかは、サービス力に大きく影響する。松本市の職員は県内研修への参加率が悪いと感じている。
- ・塩尻市の「本の寺子屋」など、お金をかけなくても利用できるものはたくさんあると思うので活用していただきたい。
- ・未来プランの中で示されている指標が複数あるが、数字で数えられるものは実績がはっきり出る。検証のタイミングなど案はあるか。

→(事務局)

年度単位で確認する必要があるが、時期や方法については今後の課題。

(伊東会長)

- ・職員研修の回数は6回→15回、健康医療支援について0回→2回、ビジネス支援について0回→4回などの数字が出ている。早めに着手し、図書

館でやっている事業を積極的に発信して行ってほしい。

(長岡委員)

・市民がボランティアとして図書館の業務に携わってくれるような仕組みはできないか。

→ (事務局)

・現在、図書館サポーター制度はあるが、情報発信ができていない。

(伊東会長)

・サポーターはどのような業務を担っているのか。

→ (事務局)

・資料の返却をしてもらっている。コロナ禍では活動をしていなかった。最近活動を再開したサポーターが1人。

(伊東会長)

・職員の業務補助というよりは、市民といっしょに図書館を運営していくような感覚でできるとよい。

・塩尻市では、ボランティアは返却業務に限らず、資料装備もやっている。

(住吉委員)

・時間は限られているので、具体的にできることをやっていく必要がある。

・プランのなかには、やりたいことがいろいろと記載されているが、いきなり達成するのは難しい。研修であれば、まずは当番制でもいいので研修に2人ずつ参加するなど、できることを探して進めていく姿勢がよいかと思う。

(2) 報告事項2 令和4年度学都松本子ども読書活動推進事業 事業報告  
資料P16～24

ア 事務局から説明

- ・令和4年度 ブックスタート、セカンドブックの配布実績
- ・ボランティア養成講座、スキルアップ講座
- ・子ども読書活動推進委員会

イ 意見

(伊東会長)

・資料について、謝礼の報告などは不要かと思う。

(豊嶋委員)

・令和5年度から、学級文庫方式でサードブック事業をスタートすることが

できてうれしく思う。教育長へ要望書を提出した。子どもが小学校に入学した際に、学級文庫が出迎える環境ができて嬉しい。

- ・コロナ禍でボランティア及びサポーターの場が限られていたが、今後は活動の機会が増えていくことを期待。

(伊東会長)

- ・学級文庫方式は珍しい。
- ・1セットの資料数は。また、クラス数に応じてセットを配布するのか。

→ (事務局)

- ・対象は松本市立小学校の新1年生
- ・セットには、絵本、読み物、知識の3種類がある。
- ・1セット 35冊程度
- ・学校の規模（新1年生の人数）に応じてセットの数を決める。50人未満は1セット、50人～100人未満は2セット、100人以上は3セット

(伊東会長)

- ・配布するセットの決め方は。
- ・1度配布したセットはその後どうなるのか。

→ (事務局)

- ・いちばん読んでもらいたいひとつめのセットは全校に配布する。
- ・3年ごとに見直しをおこなう。汚破損のひどいものは買い替える。

(伊東会長)

- ・これは持論で松本市に限ったことではないが、サードブックという事業名では、新1年生で3冊目の本ということになってしまう。よりよい事業名があるのではないかと考えている。

(豊嶋委員)

- ・伊藤会長に同意。

### (3) 報告事項3 令和5年度当初予算について

#### ア 事務局から説明

- ・歳入額及び歳出額
- ・前年対比 500 千円以上の増減があったものの主な理由

#### イ 意見

(伊東会長)

- ・長寿命化事業について、令和5年度は実施しないようだが、日程は決まっているか。

→（事務局）

- ・今年度に劣化度調査を実施したが、調査結果が提出されていない。

（伊東会長）

- ・5年度に補正対応ということか。

→（事務局）

調査結果をもとに改修計画を進めるので、5年度に大規模改修はおこなわない。

（伊東会長）

- ・職員の給与は、図書館の予算に計上されていないということでしょうか。

→（事務局）

計上されていない。

（伊東会長）

- ・松本市の一般会計の総額は。

→（事務局）

約1,000億円。

- ・全国的な予算額の尺度として、市の一般会計予算の1%を図書費に充てるのが望ましいという考え方がある。松本市の場合は1%で約10億円。人件費と合計して1%なので、図書館の予算だけでは判断できないが、おそらく松本市では10億円に届いていないと思われる。図書館関係者はこの数字を頭の隅にとどめておいてほしい。

#### (4) その他

（事務局）

- ・図書館利用者に向けて、別紙アンケートをおこなう予定。気付いた点などご指摘いただきたい。

（伊東会長）

- ・いつ、誰を対象に、どのタイミングでおこなうつもりか。

→（事務局）

令和5年4月実施予定。図書館利用者を想定している。来館者に紙ベースで配布及びインターネット上でも回答できるようにする。

前回のアンケート回答数が約2,000件だったので、同程度の回答数を

想定している。

(伊東会長)

・ 前回のアンケートの対象者は。

→ (事務局)

前回アンケートの対象者は全市民。今回は図書館利用者に絞る。

(宮永委員)

・ 前回アンケート実施時の告知方法は。

→ (事務局)

・ 利用者へ配布、地域づくりセンターへ設置、松本市職員への周知等。

(宮永委員)

・ 回覧板や広報など、もう少し広く周知したほうがよいのではないか。

(住吉委員)

・ 図書館の利用者に限定してアンケートを取る理由は。アンケート結果からどんな結果、回答を得たいのか。

→ (事務局)

・ 前は、未来プラン策定にあたり実施したもので、ハード面の質問等もあり、内容が細かかった。今回は、日々利用している市民が図書館に対してどのように考えているかを知りたい。また、今後サービスポイントを増やしていく参考としたい。

(住吉委員)

・ 事務局の説明からすると、利用の質を向上させるためだと受け取った。

(熊谷委員)

・ 未来プランの指標と整合性を取った方がよい。対面朗読サービスのことなど、未来プランに記載されている内容はアンケートでも問い、利用実態の調査としてアンケートを活用するとよい。

・ アンケート内に「多文化サービス」などの専門用語があるので、具体例を挙げると分かりやすくなる。

(豊嶋委員)

・ 「おはなし会などの行事に参加」と記載があるが、表現が曖昧かと思う。講座や講演会も実施しているので記載してはどうか。

(伊東会長)

・ 未来プランの内容にあって、現在できていない（実施していない）サービスがいくつかある。現在、図書館で実施していないサービスのために来館して

いる人はいない。現在利用していない人に対して、「どのようなサービスがあれば利用しますか」というような質問があると、利用者拡大のための声が拾える。

- ・例えば、ビジネス支援をやっていない状況でアンケートを実施して、「ビジネス支援のニーズは低い」という結論を出すようなことは危険。
- ・アンケートは、本来であれば無作為抽出して回収するとよい。その場合でも、図書館を利用していない7割の市民から回答をもらうのは難しい。集計の際には意識してもらいたい。
- ・希望するサービス、ニーズ状況を把握する項目があってもよいかと思う。
- ・「サービスポイント（予約受取場所・返却場所）」と記載しているが、一般的な利用者にイメージがわくか心配。

(宮永委員)

- ・図書館の利用者としては図書館運営を民間委託することは反対。図書館のプロとして民間委託を評価するとき、一般の利用者とは違う視点で問題点などが見えるはず。職員が、そのような情報に触れないまま松本市図書館の未来について議論するのは好ましくない。図書館の未来に向けての勉強・研修も実施して行ってほしい。

→ (事務局)

民間委託については議論がされていない状態。まずは職員のスキルアップから始めていきたい。

(伊東会長)

- ・図書館の仕事は誰でもできると思われると、民間委託の話が出てくる。専門性が必要だということを見える化することが大切。まずは未来プランに記載されていることに取り組み、情報発信していくこと。市民の目に触れるようにアピールして行ってほしい。

(豊嶋委員)

- ・民間委託については、過去に2回議論となり、いずれも直営方針という結論だった。今回の未来プランも、直営を前提としている。
- ・図書館を利用したことのない人に向けて新たなサービスを提供するためには、そういった人の声を拾っていく必要がある。
- ・未来プランが策定され、今後の図書館に期待。5年後に向け、チームを作る、又は事業の責任者を決めるなどして具体的な計画を立てて進めて行ってほしい。



(伊東会長)

- ・チームを作ることに同意。
- ・正規・非正規の垣根を越えることが職員のモチベーションアップにつながる。図書館は非常勤が圧倒的に多い。非常勤職員がモチベーションを保てないと暗い雰囲気になる。
- ・塩尻市では、ビジネス支援のためのチームを作った。職員も自費で研修に行くこともあったが、これはモチベーションがあったからだと思う。職員には、やりがいを感じながら仕事をしてほしい。

(住吉委員)

- ・県と市町村の協働電子図書館の利用状況は。

→(事務局)

松本市民は、概ね 600 人が登録している。

(長岡委員)

- ・図書館だよりは松本市図書館以外では配布していないのか。

→(事務局)

・図書館ホームページで公開している。松本市として、紙を削減してデジタル化する動きが強まっており、紙ベースの図書館だよりを公民館等に置くことは難しい。

(伊東会長)

- ・新聞記事が情報発信として効果的。最近、松本市図書館の記事をよく目にすると感じている。
- ・新しい事業を実施すると、「図書館ってこんなに役に立つんだ」と言われることがあるが、普段利用していない人からいかに期待されていないかが分かる。
- ・市民に、図書館の取り組みが伝わるためには、手を打ち続けるしかない。

#### 4 閉会